

## 科学的特性マップに関する対話型全国説明会 in 神奈川（開催結果）

日 時 : 2018年3月1日(水) 19:00~20:35  
場 所 : 神奈川産業振興センター 13階 第2会議室  
参加者数: 23名(1部・2部両方23名)  
当日の概要:

### 【第1部】

報告 (原子力発電環境整備機構 地域交流部部長 高橋 徹治)

- (1) 開会あいさつ (経済産業省資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策技術室長 吉村 一元)
- (2) 映像上映(「地層処分とは」)
- (3) 地層処分の説明

【登壇者】(敬称略)

- ・吉村 一元 (経済産業省資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策技術室長)
- ・高橋 徹治 (原子力発電環境整備機構 地域交流部部長)
- ・谷 和夫 (東京海洋大学学術研究院教授、  
総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員)

### 【第2部】

- (5) テーブルでのグループ質疑

【冒頭】NUMO及び資源エネルギー庁から「科学的特性マップに関する意見交換会」の不適切な募集について経過報告とお詫びがあった。

### 【第1部】

#### ① NUMO・資源エネルギー庁からの説明

NUMOから、地層処分は、安全上のリスクを小さくし、将来世代の負担を小さくする処分方法として国際的に採用されていること、処分地選定には地域の意向を踏まえつつ法律に基づく3段階の調査を行うこと、受け入れていただいた地域が将来にわたり発展するよう魅力ある「まちづくり」の実現に全力で取り組むこと等を説明。

資源エネルギー庁から、「科学的特性マップ」は地層処分に関する地域の科学的特性を既存のデータに基づき、一定の要件基準に従って客観的に整理したものであること、マップ公表は処分地選定に向けた長い道のりの一歩であり、日本でも地層処分に適した地下環境が広く存在するとの見通しを共有しつつ、この事業を社会全体としてどのように実現していくのかについて皆さんと一緒に考えていきたいこと等を説明。

谷氏から、科学的特性マップ作成にあたっての専門家での議論の経緯について、断層や軟弱地盤を例に要件や基準に関する議論を説明し、処分場の選定にあたっては3段階の調査できちんと安全であることを確認することを説明。

### 【第2部】

※テーブルでのグループ質疑で出された意見のうち主なものをテーマ別に記載。

#### <地層処分事業>

- ・東アジア全域で、放射性廃棄物を共同管理するという考えはないのか。  
(→回答: そのような考えは持っていない。国際条約によって、自国の廃棄物は自国で処分することになっているので、日本の廃棄物は日本で処分を行うし、海外からの廃棄物を受け入れることもない。)
- ・事業費の内訳を教えてください。  
(→回答: 技術開発費、調査費、用地取得費、設計および建設費、操業費、解体および閉鎖費、モニタリング管理費、プロジェクト管理費などの費用が含まれている。費用に関しては、毎年物価変動などを考慮して見直し、その結果を資源エネルギー庁のホームページで公開している。)
- ・事業費の中に事故やテロの発生を想定した費用は含まれているのか  
(→回答: 含まれていない。)

### <リスクと安全対策>

- ・放射能によって汚染されるという懸念が風評被害をもたらすと思う。放射能がどの程度地上に出てくる可能性があるのか確かめているのか。  
(→回答：超長期にわたる影響を実際に確かめることはできないが、シミュレーション等により様々なケースについて影響評価を行い、生活環境における安全性が確保できるよう対策を講じる。風評被害については、安全を最優先に取り組むとともに、地域経済等への悪影響をできるだけ予防する措置を検討・実施していく。また万が一、被害が発生した場合には、誠意を持って協議させていただく所存である。)
- ・物事には何にでもリスクがあるが、放射線については線量・リスクが小さくても、放射線と聞いただけで怖いと思われる。きちんとリスクコミュニケーションを行ってほしい。
- ・素人は線量などの数字を聞いても分からない。もっと分かりやすい例えや説明をしてもらえると理解ができる。

### <科学的特性マップ>

- ・科学的特性マップは新しく判明した知見をどのように更新していくのか。  
(→回答：昨年7月に公表された科学的特性マップについて、現時点では更新する予定はない。ただし、マップが公表されて以降に判明した新しい知見については、NUMOが今後、調査の実施を通じて確実に把握し、必要に応じ、関係の皆さまにご説明していく。)
- ・科学的特性マップ以外に、例えば自治体の人口や財政状況のような社会的な観点など、異なる観点を含めて検討しないのか。  
(→回答：処分地の選定にあたっては、国の審議会でも社会的な観点も重要課題であることが認識されている。今後、グリーン沿岸部を中心にNUMOが理解活動を展開する際には、社会的な観点をどのように扱っていくのかも重要なポイントになる。)
- ・地元の古文書では、大昔に断層が動いたことを示すような記載がある。しかしながら、今回の科学的特性マップではグリーンになっていた。どういうことなのか。  
(→回答：今回の科学的特性マップについては、既存の全国データに基づき全国一律の要件、基準に従って整理したものであり、各地域の適性を確定的に示すものではない。そのため、特定の地域の文献を調べれば、科学的特性マップに表示されていない情報もある。科学的特性マップは処分場の候補地を絞り込むためのものではなく、実際の調査については別に行う。)

### <今後の進め方>

- ・説明会の参加者は地層処分に関心を持っているが、無関心な人々は説明会には来ない。一般の方への理解活動として、意見交換会以外に何を考えているのか。  
(→回答：地層処分について無関心な方々への呼びかけが課題であると認識しており、例えば、人が集まっているところへ私どもが赴いて呼び掛ける、意見交換させてもらうということを考えている。)
- ・トップダウンで候補地域を選定してしまった方が、人々に関心を持ってもらえ、事業が進展すると思う。全国を対象とした取り組みは、ステークホルダーが多すぎるため非現実的では。
- ・地層処分に関する細かい議論は必要であるが、まずは多くの国民に地層処分やNUMOについて知ってもらうことを優先すべき。
- ・地層処分に絞った議論ではなく、エネルギー政策や再処理などの原子力政策全般に係る内容を含めた議論の場が必要ではないか。
- ・NUMOにはぜひ、事業主体としての矜持を持って主導的に事業を進めてもらいたい。
- ・東京港区の説明会にも参加したが、今回のようにテーマ別でグループ分けを行い、付箋を活用して議論したことで、よりの絞った議論ができてよかった。
- ・テーブルでの議論の時間が短すぎる。
- ・使用済燃料の再処理は破たんしている。再処理を止めるべきではないか。

以上